

慶応三年五月十八日より慶応三年五月廿一日まで

P8310685right

午前の引合差支の旨申来る、宛好にて、松下(金)浜中(義)此度御用懸り申渡せし礼に来る、森山(多)また来り、開港場相談慮、書持来、支配向一同鯉鱒を遣し慰勞也、明日引合齋限の儀に付、庄兵衛来る

十九日申 晴午陰雨意

第九時前、李(プロイセン)館へ至り坂地兵庫地規則第七条の儀談判、夫より仮御役所に到り、御雇英人シールへ

引合三時前帰舎、太郎は休左衛門を伴い居留地一見、余に先達て帰□、森山(多)此中(佐)稲垣(藤)竹島(房)来る、一同居残取しらべ物いたし候積り申聞る、富沢(大)御用書物持来り、且太郎へ亀□餅贈らる

廿日酉 雨

第六時前出立、十時半品駅川崎屋午休、坂地□来無音に付仏館尋問せし処、不在の趣故名刺代わり

P8310685left

一書を遣して引受、第三時前帰着、田畑(栄)義寺山小君に伴われ持を賀に来り、魚五尾(鯉、こち、いなだ等)

贈らる、岡本(せき)同賀に来り鮓一重を贈らる賀銀並鳥の子代へ鶏卵一折添遣し一杯を為取、

一昨日

山本次郎同賀に来り鯉ぶし一折贈らせし旨、町田(耕)より同断魚(黒鯛二尾こち)贈り越す旨、右の内三尾を

礪川児の見舞に遣せし旨、一昨日渡辺(幸)小君類焼見舞謝として菓子小切団扇等持来旨、須崎

伯母来り梅実を携小品持来、此度の賀銀遣せし旨、富沢叔母来り大助実父法会□し物持来の旨、五郎より賀状届く旨、(札さし)板倉屋より賀として鯉ぶし一折差越旨、酒井若州より賀として鮮鯛樽代三方

使者を以贈らせし旨、小侍定次病あるにより下需申□旨、

廿一日戌 暁震薄晴

町田(耕)□山(□)宮原(寿)来り面す、出殿、金港引合の条件函書頭へ建言す、細谷(秀)来り鮑(あわび)三枚

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。